

今年度で42回目を数える児童生徒読書感想文コンクールに、今回も優秀な作品が数多く寄せられ、29点が入賞作品に選ばれました。各賞を受賞した児童・生徒の皆さんを紹介します。また今月から、各部門の最優秀作品を順次紹介していきます。
※コンクールの審査対象は小学校3年生以上。

第42回 児童生徒 読書感想文 コンクール



小学校の部 6年生
参加数 45点

▶最優秀賞/沢原 美義さん(弟子屈小)

▶優秀賞
坪井 謙尚君(奥春別小)
土田 渉介君(和琴小)

選んだ本
がんばれば、幸せになれるよ

小学校の部 5年生
参加数 53点

▶最優秀賞/橋田 明君(美留和小)

▶優秀賞
城川 結磨君(弟子屈小)
島津 佳歩さん(川湯小)
鈴木 琉生さん(和琴小)

選んだ本
アラスカ光と風

小学校の部 4年生
参加数 52点

▶最優秀賞/永谷 竺々花さん(弟子屈小)

▶優秀賞
有馬 葵さん(弟子屈小)
岡本 朱夏さん(奥春別小)

選んだ本
イワンの馬鹿

小学校の部 3年生
参加数 55点

▶最優秀賞/橋田 泉君(美留和小)

▶優秀賞
宮田 凌佑君(弟子屈小)
深井 元気君(奥春別小)
西田 共希君(美留和小)

選んだ本
海底二万里

高等学校の部
参加数 83点

▶最優秀賞/谷田 優花さん(弟子屈高1年)

▶優秀賞
西田 愛梨さん(弟高1年)
大井 美侑さん(弟高2年)
坪井 彩音さん(弟高2年)

選んだ本
「起こること」にはすべて意味がある

中学校の部 3年生
参加数 54点

▶最優秀賞/吉田 花月さん(弟子屈中)

▶優秀賞
原田 愛さん(川湯中)
橋本 未祐さん(弟子屈中)
松田 瑠衣さん(弟子屈中)

選んだ本
ソウルメイト

中学校の部 2年生
参加数 62点

▶最優秀賞/池上 知乃新君(川湯中)

▶優秀賞
嶋津 希穂さん(弟子屈中)
陶野 聖華さん(弟子屈中)

選んだ本
獣の奏者

中学校の部 1年生
参加数 61点

▶最優秀賞/浜崎 心寧さん(弟子屈中)

▶優秀賞
青木 華央さん(弟子屈中)
磯里 萌衣さん(弟子屈中)
宮田 響夏さん(弟子屈中)

選んだ本
奇跡はつばさに乗って

■小学校3年生の部 最優秀賞 水中での生活 美留和小学校 橋田 泉君

ぼくは、昔の本を読んでいたなと思ったので、昔の本が、おいてある場所をみて見ると、この本が、おもしろそうだったので、読もうと思いました。

なぜ、おもしろそうだったかと言つて、ひょうしの絵に、せん水かんが、かいていたので、おもしろそうだなと思つきました。これは、今からやへ一五〇年前のお話です。

このころ、世界中の海のあちこちで、ふしぎなかいじゅうが現れて大さわぎになりました。

さいしょにそれを見たのは、インドの船で、そこで、ネッタたちが調査したところ大きなせん水かんに、のみこまれます。

その中で、海でのけしきや、かりのよつすなど、色々な物を見ます。

しかし、かん長の思いがわかったとき、この三人はどうするかと言つて内容です。地上にあげられないと思つて、地上にげ出します。

ぼくは、この本を読んで、すこいなと思つきました。

なぜかと思つたかと言つて、これは、一五〇年前に作られた本です。そのころは、せん水かんなど、なんにもなかったのです。とつとつとは、そうどうしながらこの本を書いたのです。なので、すこいなと思つきました。

おもしろかったところは、三つあります。

一つ目は、かん長が、はか士たちに、うみの中のけしきを見せて、あげた場面です。いるかや、いかなど、色々な生き物が見られます。

二つ目は、水中のかりをしていたとき、地上では、とれないものを、しとめた場面です。一匹もある、りっぱなついででした。

もう一つは、ノーチラス号を、そうじゅうしている入屋です。きかいやメーターが、びびり、しきつめてありました。ここには、ノーチラス号を動かす、すべてのきかいが、あつめられていたのです。

ぼくは、この本を読んで、水中で生活してみたいなと、思いました。なぜかと言つて、せん水かんにつつて、海の中をたびすれば、ゆうだいなけしきや、おいしい食べ物、食べたり、見たりできるからです。しかも、ねんりょうがきれるしんはいも、ないので、なぜかと言つて、海から、ナトリウムをとつて、それで、電気をあつめて、進んでいるからです。

でも、このせん水かんを作るのに、はく大な、お金が、かかります。それでも、このせん水かんを作った、ネモかん長は、すこいなと思つきました。

(書名)「海底二万里」 ジュール・ベルヌ/著

(寸評)150年も昔のお話を読んだ時の泉君のわくわくした気持ちや伝わる感想文です。この物語が全て想像で書かれたことに対する泉君のおもしろさと感動がよくわかります。また、泉君がおもしろいと感じたところを「三つあります」と整理しながら書いている部分もわかりやすいです。あらすじの説明もとても上手ですね。感想文を読んで「海底二万里」を私も読みたくなりました。きつと泉君のように、水中の世界にわくわくするのでしょね。とても楽しい感想文でした。

■小学校4年生の部 最優秀賞 イワンの天才 弟子屈小学校 永谷 竺々花さん

ある日の夜、会社から帰ってきた父に一冊の本を渡されました。

「おもしろいから読んでみたらどうだ。」嬉しくて、タイトルを見ると思わず吹き出してしまいました。だってイワンの馬鹿なんて、どんな馬鹿な人のお話なんだろうと思つたからです。そんな思いでとびらを開きました。この本は、ロシアに住んでいるトルストイという大変有名な作家が書いています。トルストイは、自分の長い人生経験をもとに読み書きのできない人にもわかるようにと民話を作りました。その代表的な作品の一つがこのお話です。イワンは、農民で、ただ少し頭がにぶくて「馬鹿だ。」と周りから笑われていたのですが、実はうそのつけない正直で大変働き者でした。そんなイワンが最後には、悪魔との戦いに勝ち、幸運を手にするというお話です。私は母に質問をしました。「正直に生きることは、馬鹿なことなの？」母は、とても困った顔をして「とても難しい質問だね。」と言いました。そして正直に生きるということ、馬鹿なことではなくて、実はすこくむずかしく、誰でもできることではないのだよと教えてくれました。そして時には、正直すぎるのも人をきずつけてしまったり問題が起きたりすることもあるのだと教えてくれました。イワンのように正直者で損や得など考えずに生きるの馬鹿なのではなく、こつこつという生き方ができることこそ天才なのではないかと考えました。

なのでタイトルも「イワンの天才」に変えても良いのではないのでしょうか。この本の最後の文章に手にたこのできている人は食卓につくことができるけれども、たこのない人は、人の食べ残しを食べることになっているという文があります。私の家も「働かざる者食うべからず。」と小さな頃から言われてきました。茶碗洗いや玄関掃除などのお手伝いをしています。父のすすめてくれた本は、私にたくさんのお話を教えてくれました。大事に本棚にしまつて、また数年後に開いてみて自分がどう感じるのか、今から楽しみです。

(書名)「イワンの馬鹿」 トルストイ/著

(寸評)初めてタイトルを見たときの思いが思わず吹き出してしまいました。という言葉によく表されています。また、読んだ後にお母さんにした質問のことや、新しいタイトルを考えたことなどから、永谷さんが「イワンの馬鹿」という本についてじっくり考えたことが伝わってきました。ぜひお父さんからすすめてもらった面白い本を、感想文にもあるように数年後読み返した上で、今の自分の感じ方と比べてほしいと思います。



※そのほかの最優秀作品については、来月以降順次紹介していきます。